

ネットビデオで『超高速！参勤交代リターンズ』を見ていたら、渡辺裕之さんが尾張柳生の手練れの役で出演されていました。敵ながら天晴れな役柄で、登場するだけで場面に緊張感が走る素晴らしい存在感を見せてくれました。この屈強な男がもうこの世に存在しないなどとは、とても信じられぬ思いです。驚きも冷めやらぬころ、続いて上島竜兵さんの訃報が届きました。人の心はわからぬとはいえ、何故、どうして？という戸惑いが尽きません

あれは、ちょうど十年前の今時分のことでした。あと一時間ほどで仕事が終わるといふ頃、携帯電話に親戚の老爺がお世話になっていての高齢者施設からの着信が入りました。その二年前の入所の折に、私は彼の身元保証人を引き受けていたのです。もちろん嫌な予感しかありませんでした。電話に出ると案の定『○○さんが施設内でトラブルを起こし、興奮していて手が付けられない。早く来て欲しい』との急報でした。

女性の職員さんの声は逼迫しており尋常でないことは容易に察することができました。慌てて仕事を切り上げて出雲市にある施設に車で駆けつけると、老爺はまだ興奮状態にあり、園長さ

んに鬼の形相で罵詈雑言を浴びせている最中でした。どうやら他の入所者さんと揉め事を起こした上に手を出してしまい、咎めた職員の方達に逆ギレしたらしいのです。

そんな彼の異様で身勝手な態度に園長さんも酷く憤っており、身元保証人といえど如何ともしがたく、とりあえず近くにある私の両親が暮らす実家に連れて帰ることにしました。ですがいつでも実家に置いておくわけにもいきません。幸い翌日、園長さんから『今回は謝ってもらえれば許します』という連絡を貰い、施設へ帰ることを頑なに嫌がる老爺を何とかなだめすかして、週明けの月曜日に二人で謝罪に行く約束を交わすことができました。ただ私は、そのとき彼が見せた不敵な笑みに得体の知れぬ不安を覚えたのです。

月曜の朝、老爺は寝泊りしていた実家の離れで首を縊りました。私はこの結末に到った彼の心中を察してみようと試みましたが、想像を超えた真つ黒い穴に引き込まれそうになり、怖くなつて慌てて我に戻りました。あの時の例えのような後味の悪さは、十年経った今でも心の底に滯ったままです。

2022.5.23

夕焼け通信 1353号



〒690-0823 島根県松江市西川津町4276-B402 gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/ 編集 宮森健次

専業ババ奮闘記（その2）99

木幡智恵美

新学期（1）

義母の部屋と仏間の整理はあらかた終えた。ただ、そこから出てきたものを収納するのに、居間や二階の押し入れの整理が必要になり、家全体に波及してきた。ともかく、四十九日の法要は終えた。急ぐ必要はない。おそらく猛暑になるだろう夏までにやればいいか。

そして、ついに新学期がやってきた。寛大が小学校入学、宗矢は二か月ほど過ぎた託児所を去り、実歩と同じ保育所に入所するのだ。

四月一日、寛大は初の児童クラブ、宗矢は保育所初日だ。私は、寛大を歩いて児童クラブまで送ること、昼前に迎えに行きお昼ご飯を食べさせること、そのあと、初日なので半日で帰る宗矢を迎えに行くこと、この三つを娘から頼まれた。

朝七時に家を出て娘の家に着くと、母子とも朝食中だった。着替え、検温、歯磨き、顔洗いと怒涛のような数十分の後、娘は実歩と宗矢を連れて家を出た。しばらくしてから寛大と家を出て、児童クラブに向かう。何度か歩く練習はしているが、一山越さねばならず、上りは骨が折れる。「ババ、休憩」「え、もう？」と言いながら頂上を越す。ここからは楽ちんだ。風が吹く度に桜の花びらが雪のように舞う中を、二人で快適に下った。目指す児童クラブは、この春、小学部と幼稚部が新築された玉湯学園の敷地内にあり、幼稚部に隣接する建物の二階にある。開始時刻の八時半前には、すでに何人か子どもたちが入り口付近にいた。「知ってる子いる？」と聞くと、寛大は首を横に振る。少し心配だけど、昼までだ、がんばれと心の中で言いながら先生に引き継ぐ。歩いて帰り、持ってきたパソコンで点訳、十一時過ぎから昼食の準備し、寛大迎えにまた歩いた。家に向かいながら寛大の様子を聞く。学年ごとに仕切りされ、一年生の中に知った子は一人もおらず、ずっと絵を描いていたとのことだ。

昼食を食べ終わると、すぐに保育所へ向かう。二階の宗矢の部屋に上がると、先生の胸の中で眠っていた。託児所に入った時と同様、泣き寝入りをしたらしい。

我が家に二人を連れて帰り、宗矢を乳母車に乗せ、近くの公園へ行く。寛大はバツタの遊具にまたがり、宗矢は滑り台をきやつきやつて滑った。少しはストレス発散できたかな。

30代フリーター やあ、ジイさん。ロシアとウクライナの戦争は「こう着状態」が伝えられるようになった。

年金生活者 2カ月半以上たつて一種の均衡状態に達し、戦争が「構造化」することが可能性のひとつとして浮上してきた。東西冷戦が「冷戦構造化」と呼ばれるに至ったように。

当初は首都の陥落は時間の問題といった予測が報じられた。その見通しが崩れると、ロシア経済が早期に破綻する可能性が伝えられた。いずれもこの戦争が大きな不均衡をもたらすとの前提に立った見方と言える。

時間がたつにつれて、そうした見方はどちらも後景に退いた。戦争は「不均衡」から「均衡」へと転換しつつあるように見える。それはウクライナ国内にとどまらない。フィンランドやスウェーデンがNATO加盟に動き出したことにもあらわれているように、世界の安全保障システムの変化をとまないうながら、戦争の「構造化」が進むことを今後の可能性のひとつとして想定

た吉本隆明だった。個人より集団を重んじる考え方がどれだけ人間を残酷にするか。吉本はそのことへの警戒を最後まで解くことはなかった。

30代 対独戦勝記念日の軍事パレードで演説したプーチンは「キエフは核兵器取得の可能性を発表していた」と主張したそうだが（5月9日NHK NEWS WEB）。

年金 ロシア国民はプーチンを支持してはいても、ウクライナに攻め込まれたわけではないから、「被害感情」はそれほど強くないと推察される。それは戦争を進めにくいと考えたプーチンは、代わりに「被害妄想」を植えつけようとしているように見える。

戦争は国民の被害感情を推進力とする。他国が攻めてきた、あるいは攻めてきそうになったときに生まれるその感情が国民を結束させ、戦う大義名分を形成する。

ウクライナ国民にはロシアに侵略されたという強烈な被害感情と、侵略者を撃退しなければならないという明白

しておく必要を感じる。それは地獄が常態化し、緊張が恒常化することを意味する。

30代 ロシア国民のあいだで戦争に反対する声が高まらない。

年金 池田嘉郎というロシア史の研究者が先日の朝日新聞で、「サボールノスチ」という、ロシアの古い文化を表す概念があると語っていた（5月11日朝刊）。「個人が集団に融合することで社会が調和するという考え方で」と説明している。個人より集団を重んじる思想は帝政ロシア、ソ連、そして現在のロシアに至るまで一貫しており、中国や日本など近隣のどの国よりもそれは強いように感じられる。

池田は「サボールノスチ」は「人権の尊重や私有財産の不可侵を基礎におく西欧的な近代思想とは別な位相にあります」と語る。中国は「人権の尊重」こそないものの、「私有財産の不可侵」は制限付きながらかなり浸透していることを世界第2位のGDPが示している。日本は太平洋戦争での敗北

な大義があり、それが兵士、国民の士気を高めている。ロシア国民にはそれが無い。この戦争に何がなんでも勝たなければならないという切実さは感じられない。

プーチンはそれを承知しているから、なんとか国民のあいだに被害感情を醸成しようと、ウクライナが核武装を表明したかのようなことを語ったのだと推察される。

でアメリカに「人権の尊重」を押しつけられ、それが戦前からあった「私有財産の不可侵」とあいまって高度経済成長をあと押しする力となった。

ロシアの場合は「人権の尊重」も「私有財産の不可侵」も「サボールノスチ」によつて妨げられていて、それが軍事力の肥大化と経済発展の遅れを招いている。

30代 「サボールノスチ」というのはそんなに強いのか。

年金 この前近代的でローカルな思想を生き延びさせた要因のひとつは「社会主義」というグローバルな思想だ。ソ連の誕生で「サボールノスチ」は「社会主義」の衣をまとい、それによつて勢いを得た。別の面から見れば、西欧で生まれた「社会主義」は「サボールノスチ」によつてねじ曲げられた。

その結果、個人より集団を優先するのが「社会主義」だという錯誤が世界に広まった。日本でそれと戦い続けたのが、プロレタリア文学を批判し、ソ連や中国を批判する手をゆるめなかつ

30代 ウクライナのほうは日々起きている現実の被害がこれでもかというほど被害感情を再生産し続けている。

年金 戦争の推進力となる国民の被害感情の大きさにこれだけ開きがあると、当然ながら戦局を左右する。つまりウクライナに有利に、ロシアには不利に働く。人為的には変えようのないこの差を考えると、孤立を深めるロシアが勝利する光景を思い浮かべるのは難しい。

30代 そうなると、やつぱり核の使用が懸念される。

年金 マシュー・クローニグというアメリカの核戦略の専門家が「ある意味、ロシアはすでに核のチキンゲームには勝っているとも言える」と語っている（5月4日朝日新聞朝刊）。「ロシアとの核戦争を避けたい」と公言するバイデン政権を弱腰と見る指摘だが、ロシアが勝っているなら、実際に核を使う必要はない。核戦争の可能性はゼロではないが低い状態が続くだろう。

ニュース日記 831
中村 礼治

戦争が「構造化」 するのか